



私の愛するヒーローたち

会員 清水 皓貴 (69期)

私はマンガが好きなので、一人のときはよくマンガを読んでいます。司法試験受験時代にも、ロースクールにまでマンガを持ち込んで読んでいました。卒業時にはロッカーからマンガを持ち出すのが大変で、宅配便を利用したほどです（何のためにロースクールに通っていたのか……）。

そんな私が最近ハマっているマンガが、「バットマン」をはじめとする、いわゆる「アメリカンコミック・ヒーローもの」（以下、「アメコミ」という）なのです。そんなわけで、にわか仕込みで大変申し訳ないのですが、アメコミについて語っていこうと思います。

日本には大変に優れたマンガ文化がありますが、なかなかどうして、アメコミというのも日本のそれとは違った魅力が詰まっているものです。

例えば、アメコミは同一出版社の複数の作品で世界を共有していたりします。要するに、バットマンの居るゴッサム・シティも、スーパーマンの居るメトロポリスも、ワンダーウーマンの居るセミッシラも、同じ世界にあるわけです。そのため、彼らは必要に応じて協力したり、対立したり、一緒に活動するチームを設立したりします（以上に挙げた三名を中心とするヒーローチームを



Copyright © DC Comics. All rights reserved.
小学館集英社プロダクション刊

「ジャスティス・リーグ」といいます）。映画で有名な「アベンジャーズ」もこのようなヒーローチームの一つです。

日本のマンガで例えると、ルフィが冒険しているところに悟空がやってきて、なんやかんやで承太郎も加わり、ナルトや

ケンシロウも参加して、みんなで大魔王バーンと戦う……というようなことが普通に行われるわけです。これが楽しくないわけがない！

また、アメコミは作者が交代していきます。あるときはジェフ・ジョーンズが書いていた「バットマン」の脚本を、あるときはスコット・スナイダーが書いています。

だから、80年近く続く「バットマン」や「スーパーマン」のようなシリーズでも、常に新規性のある物語が生まれ続けるわけです。

日本のマンガで例えると、同じ「聖闘士星矢」を車田正美氏が描いたり、富樫義博氏が描いたり、福本伸行氏が描いたり、板垣恵介氏が描いたりするわけです。これが楽しくないわけがない！

そして、作品が長く続く性質上、アメコミは設定がしばしば変わります。死んだ人も生き返ります。隻腕だったはずのアクアマンも今は両腕がありますし、壮年だったはずのキャプテン・コールドが青年～中年くらいの歳に若返っていますし、死んだはずの2代目ロビンや半身不随になったはずのバットガールも元気に走り回っています。そのため同じ作品のいろんな面が楽しめるわけです。

これを日本のマンガで例えると、フリーザによって爆発四散したはずのクリリンがセル編ではセルジュニアと戦って……あれ？

……まあ、そのようなわけで、アメコミは大変面白いわけです。紙面の都合上、アメコミの魅力を語りつくすには至りませんが、本稿を読んでアメコミに興味を持ってくれる方が増えると幸いです。

あと、メディア展開の豊富さもアメコミの魅力の一つです。ひとまずは、2017年1月公開の映画「ドクター・ストレンジ」を観ながら、同年公開の「スパイダーマン・ホームカミング」や「ジャスティス・リーグPart1」を待つこととしましょう。